

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 26 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870103730		
法人名	社会福祉法人 喜久寿		
事業所名	グループホーム ウェルケアみどろ		
所在地	愛媛県松山市水泥町1 3 2 番地1 (電話) 089-905-9116		
管理者	山本 明美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 1 月 20 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 27 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 31 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	12.9 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 31 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	2 名	要介護 2	6 名
要介護 3	6 名	要介護 4	1 名
要介護 5	3 名	要支援 2	名
年齢	平均 81.1 歳	最低 52 歳	最高 98 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から一步入った閑静な田園地域に建つ、デイサービスセンターを併設した2ユニットのホームである。管理者は、利用者がのんびりと過ごしやすい環境をつくることに努めている。管理者と職員は利用者がお互い助け合って生活することを大切にしている。利用者同士が「一緒に輪投げをしよう」と誘い合って運動をしたり、モップかけやごみ箱の掃除などの当番表をつくり、役割を担いながら生きがいを持って日々生活できるように配慮している。職員は利用者に温かい声かけをしながらケアを行っており、ホーム内は和やかで明るい雰囲気がある。24時間訪問看護師と連絡が取れる体制があり、利用者や家族も安心している。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回から引き続き、管理者は「地域とのかかわりを増やすこと」を心がけている。職員は、利用者との散歩の際はごみ袋を携帯して清掃活動を行っている。さらに近隣の神社の清掃当番にも入る予定である。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は職員全員が記入し、話し合っ管理者がまとめて作成している。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議では、行事の報告や日々の暮らしぶり、運営方法まで様々な意見が出ている。ホームのリビングで開催しているため、区長や民生委員、市や地域包括支援センターの職員、家族などが、利用者の暮らしぶりを考慮しながらの意見交換ができています。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族が来訪した際や、電話などで意見を聞くことが多い。家族から「洗濯物が雨に濡れやすいので、職員の労力軽減のためにも改良してほしい」との意見が出たので、運営法人とも相談し、雨よけカーテンが設置されたこともある。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

近隣に住宅は少ないが、利用者は、散歩や畑仕事をする方と挨拶や会話を交わすことを楽しみにしている。年間行事の秋祭りで顔なじみになった方と出会って挨拶を交わすなど、ゆっくと関係も深まってきている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ウェルケア みどろ

(ユニット名) ストロベリーハウス

記入者(管理者)  
氏名 山本 明美

評価完了日 平成 20 年 12 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します。」と理念をかかげており、地域との関わりを持った生活が出来るような支援を目指している。  (外部評価) 管理者と職員は、理念の「穏やかで豊かな暮らし」という言葉どおり、利用者がホーム内でも地域の中でも過ごしやすい生活を送れるよう支援している。	※	理念に基づき今後も行っていく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づき、ユニット会や運営推進会議を通して理念の実践にむけて話し合い、取り組む努力をしている。  (外部評価) 職員は、開設時に全員で作った理念に愛着を持って実践に取り組んでいる。管理者と職員は会議の中で話し合い、利用者一人ひとりに合ったより良い介護を目指している。	※	町内会の行事の防災訓練や商店街の菊花展等に参加したり、ホーム内の行事に町内の方を招待したり、散歩時には近隣の方とのコミュニケーションを心掛けているが、機会も少ない。今後、利用者の生活と地域生活をつなげていきたいと思う。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やホーム内の行事に参加して頂き、話し合いをしたり、日常の利用者の様子をみて頂き、理解を深めて頂いている。	※	掲示板設置を検討中

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩途中や出勤時に会った時など挨拶や立ち話をしたりして、関心を持って頂いている。	※	気軽に休憩場所として立ち寄って頂き、お茶を共にしたり出来るような雰囲気作りをしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議や消防訓練、ホーム内の行事に参加して頂いている。サロンの利用もさせて頂いている。  (外部評価) 町内会に所属している。秋祭りには家族にも案内を配り、地域の方や子どもたちも毎年多数来てもらい、利用者の楽しみの一つとなっている。公民館主催の文化祭に利用者のちぎり絵を出品して、好評を得ている。地域とのかかわりが持てる場を利用して、ホームと利用者を知ってもらおうよう努めている。近隣の方から農産物や季節の花の差し入れがあり、お礼にお茶の接待をしている。	※	地域の行事にも参加している。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 散歩の時間を利用して、ゴミ拾いが出来るのではと検討し、取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 個々で自己評価し、管理者・職員で話し合いの場を持っている。  (外部評価) 自己評価は職員全員が個別に行っている。開設から5年目を迎え、利用者は落ち着いた生活を送っている。管理者は、地域とのつながり強化のため活動を続け、職員は日々のケアの質の向上に取り組んでいる。評価を一人ひとりが業務の振り返りに役立てている。	※	外部評価を基に話し合い、どのように改善すべきかを具体的にまとめ、取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議により利用者の生活を実際にみて頂き、意見交換をしてサービスの向上に生かしている。  (外部評価) 運営推進会議の開催時間を毎回変更し、家族や地域の方など参加者が一番多く集まれる時間帯に設定している。職員の参加人数も多い。区長や民生委員からは町内の情報を得て、市や地域包括支援センターの職員からは制度の情報や助言を得ている。近隣施設からの出席者は無い。	※	管理者の努力により、運営推進会議の出席者数は毎回多い。しかし、近隣に住宅が少ないので、緊急時に備えて消防署や警察にも出席してもらい、ホームの構造や現状を把握してもらうことが望まれる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村には、度々足を運び相談にのって頂くことがある。また、運営推進会議以外ではあまり機会が少ないので今後実施していきたい。  (外部評価) 市の社会福祉協議会の担当者が決まっており、相談しやすい関係ができています。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方がおられるので、より理解を深め、必要な方には活用が出来るように、職員も学ぶ機会を持っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、職員全員で徹底して防止に取り組んでいる。	※	ユニット会等で学んでいるが、全職員が理解できるように、学ぶ機会をさらに持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約については、利用者や家族等と納得して頂いた上で、相互の理解と納得を十分して頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を2か月に1度、本人も出席して頂き外部者と話せる機会を設けている。また、苦情受付窓口を通じて意見や不満を伺う機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 健康状態や金銭管理は、来所された時に詳しく説明している。  (外部評価) 年4回程度、運営法人の広報誌で行事の報告、写真、職員の異動などを家族に知らせている。預かり金を保管している家族には領収書等を送り、署名捺印して返送してもらっている。	※	・月に1度現状報告の手紙を出す。 ・面会時、家族の要望があればケース記録等を閲覧して頂く。 ・行事の案内をする。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口を設け、意見や不満を伺う機会を設けている。  (外部評価) 家族の意見は来訪時に聞くことが多い。遠方の親族には電話で確認している。重要事項説明書に第三者機関及び運営法人の苦情受付窓口や、苦情改善システムも明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会やミーティング時に意見を聞く機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じた、勤務体制にしている。	※	今後、ターミナルケアの取り組み時など、家族も交えて対応を検討している。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動は最小限に抑えているが、やむを得ない場合は、不安を与えないよう配慮している。	※	今後、異動時などに備え職員一人一人が利用者に対して同じ気持ちでケア出来るよう統一している。
			(外部評価) 法人内の異動はあるが、ほとんどない。利用者との関係性を続けるため、ユニット間の異動も行っていない。可能であれば、新旧職員のシフトを重複させている。管理者は日頃シフトに入っていないので、業務のフォローができるという利点がある。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修へは積極的に参加している。また、働きながら学び向上できるように働きかけている。	※	さらに職員の意識を高め向上できるように、学習する機会を持ちたい。
			(外部評価) 管理者は法人内外の研修案内を職員に知らせ、職員は自主的に参加している。研修報告は2か月に1度のホーム全体会議で行っている。会議終了後は、研修内容をより理解するためレポートを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会や研修等に参加している。また、他施設からの見学や研修の受け入れをしている。  (外部評価) 職員はグループホームの相互研修に参加して、サービスの質の向上を目指している。管理者と職員は、県や市の研修を通じて、また法人内の他施設からの情報も多く得られる状況にある。	※	地域の同業者と協力をし、一緒に行事を開催して地域の方を招待したり、利用者間の交流を持てるように計画している。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会や社員旅行を通じて、他の部署の職員ともコミュニケーションが図れるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) チャレンジカードを提出により、管理者や職員個々の現状や目標、希望の把握に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前から利用者とのコミュニケーションや意向の把握に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前には本人や家族さんと話し合い、意見や希望を聞きそれに答えるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の様子をまずみながら、必要とする支援を家族や本人、関係者から聞き相談し対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前には見学をして頂いたり、ホームで生活をしている利用者との会話をするなど、馴染んで頂くように心掛けている。  (外部評価) 自宅や病院から入居希望がある場合、管理者と計画作成担当者は本人及び家族から話を聞き、見学や泊りの要望にも応じ、スムーズな入居となるよう努めている。併設のデイサービスを利用してから入居する場合もあり、デイサービスの職員とも馴染みの関係が保たれている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員一人一人が家族の一員となり、生活を共にすることにより、学ぶことがあり、いい関係作りが出来ている。  (外部評価) 職員は、利用者からホーム内にある畑の野菜の育て方を教わったり、テレビの料理番組を見ながら調理方法を教わるなどしている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時や行事等で食事を一緒にして頂いたり、同じ時間を共有し、信頼関係が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族さんの来所時、近況は常に報告している。また、行事など参加して頂き、ご家族さんと楽しく過ごして頂けるよう工夫している。	※	仕事や遠距離のため、面会に来られないご家族さんが多い。行事や日常のスナップ写真などを送付し、近況を知らせていければと思う。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人さんが今までしてきたことを続けられるように家族と共に支援している。近所にお住いだった方は、散歩などをして馴染みの場所へ行ったりして、楽しんでいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲の良いかた同志、談笑したり助け合ったりしている。時には職員が間に入り、そのような関係になれるように支援している。	※	違うフロアや、近隣の施設などで交流を深め、個々で行き来ができるよう支援していきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 継続的に電話などで話し合ったり、相談を受けたりしながら近況を話し合っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活をみながら、職員が本人さんの思いや希望を聞きだしたりしている。また、ご本人のペースや希望に合わせて支援している。  (外部評価) 家族から利用者に希望を聞いてもらい、実現できるものから実行している。職員は、利用者の体調や思いを考慮しながら臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人さんや家族さんから聞かせて頂いたり、生活歴やサービス利用経過なども目を通し把握している。	※	入居時には、生活歴や既往歴等を的確に把握し、生活支援につなげていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者さん一人一人の生活のリズムを崩さないように見守り、心身の変化を見逃さないように努めている。	※	当番表を作り、テーブル拭き・床モップ掛けなど出来る範囲でして頂いている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを開き意見を出し合い、介護計画の見直し等を行っている。  (外部評価) 介護計画は、利用者及び家族の希望や状態を考慮して作成している。利用者ごとに担当制で職員が決まっているが、他の職員とも話し合いながら計画を作成している。月1回の職員会には夜勤者も出席し、欠席者には記録と口頭で情報の共有化を図っている。	※	モニタリングし、介護計画に生かしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヵ月に1度カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。変化があった時には、随時話し合い作成している  (外部評価) 3か月ごとに介護計画を見直している。介護計画の内容を日々評価した記録をもとに、1か月の評価を行い、次月の介護目標を決めている。変化があった場合には新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録をこまめに書くことにより、情報を共有しケアプランの見直しにも生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人さんや家族さんの要望を聞き、同事業所との連携をはかり支援している。  (外部評価) 併設のデイサービスで催される餅つきの行事などに参加しており、ホームとデイサービスの利用者同士で会話を楽しむ機会もある。利用者の外出希望などに対しては基本的に家族の協力が得られるが、通院介助などは家族から希望がある場合は支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民生委員さんや消防署、その他の協力を頂き、意見交換や訓練等を行いながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じ、地域の他のサービス事業所やケアマネジャーと話し合いサービスを受ける為の支援が出来る。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて相談したり、研修等にも参加している。	※	地域包括支援センターを通じて他の事業所との関係づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 地域の中にある医療機関との協力を得ながら、ご家族さんも納得される医療を受けている。  (外部評価) 利用者及び家族の希望を大切にし、入居時にかかりつけ医を決めている。協力医療機関から月1回往診があり、定期的に血液検査やレントゲン等も行っている。協力歯科も本人や家族の希望により往診に応じてもらえる。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) それぞれの専門の医師に随時相談し、関係を築いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションの訪問を週2回受け、日常の健康管理を医師と連携をとりながら支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院関係者と相談し、情報交換に努め連携をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ご家族さんの意思を尊重し、話し合いを続けながら医師と連携をとり方針を共有している。  (外部評価) 看取りの経験は無いが、医師、訪問看護師、職員と家族は度々話し合っている。職員は研修で重度化について知識を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族と、医師や訪問看護ステーションと共に取り組んでいる。今後の変化に備えた検討も行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご家族さんと相談し、他施設と情報交換に努めている。		常に情報交換できるよう努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーを守り、言葉づかいや対応の仕方などに十分配慮している。また個人情報の取り扱いはしていない。  (外部評価) 職員は、利用者と同じ食卓に着き、会話を楽しみながらも全員に自然な感じで注意を払っている。その気負いの無さは介護する側、される側ではなく、お互いを家族として受け入れている感じがある。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思や希望が表現できやすいように声かけを行ったり、分かり易い説明を行い、希望に沿った支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんのペースに合わせた過ごし方を配慮し、それに沿った支援を心掛けている。  (外部評価) 職員は、ホームの良い所を「利用者さんに温かい声かけをしながら支援していること」と考えている。共同生活のルールや利用者のできないことの中でも、工夫して利用者のできることを見出している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入浴時や外出時には、利用者と一緒に洋服を選んで入浴する。散髪は、希望を聞き望むお店に行かされている。ご家族さんと一緒に馴染みのお店に行かれる方もいる。	※	月に1回でも女性の利用者さんにはお化粧品をして頂き、喜んで頂くように支援していきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー作成時に利用者さんの希望を聞いたり、買い物や配膳等できることは、一緒にして頂いている。テーブルを囲み楽しい食事が出るように職員も一緒に食事をしている。  (外部評価) ミキサー食や刻み食、お粥など、利用者に応じて食事を用意している。利用者はテーブル拭きや下膳などを分担している。職員は利用者の好みや希望を聞きながら献立を立てている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつや飲み物など個々の好みを把握し、その都度希望に沿ったものをお出ししている。お酒やタバコなどを嗜む利用者は現在のところいないが、希望に沿うように支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけにより紙パンツやオムツ使用を減らしていけるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 時間帯の希望はないが、順番は希望される為、他の方と相談し合い、組合わせている。  (外部評価) 入浴は週に2回は行うようにしているが、状況に応じてシャワー浴、足浴、清拭などで清潔を保つよう配慮している。介助を要する利用者は、職員数の多い午後に入浴するなどの工夫もしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の身体状況に応じて休息して頂いている。	※	共用スペース・個室共にリラックス出来る環境を作っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 掃除・洗濯などの日常生活の役割を決めており、その人に合った支援をしている。  (外部評価) 職員は、一人ひとりに合わせた役割を担ってもらえるよう支援している。廊下に当番表を作り、モップがけやゴミ箱の管理など、できることを楽しみながら行えるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人さんが所持し、使用している人もいる。理解されていない利用者さんには、一度お預かりしご自分の必要なものに対する訴えには応えている。なるべく、スーパーやお店などでお金を支払うことで、買い物をする気分になる支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日などはみんなで外出したり、ドライブに出かけたりする。また、利用者さんの意見を聞き、外出行事に生かしている。  (外部評価) 業務日誌に外出した利用者の名前を記録して、チェックしている。初詣や花見、夕涼み会やクリスマス会などの行事以外にも、近くの喫茶店や海岸公園への遠出も行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ご家族さんが面会に来所された時などは、お買い物やお墓参り、理容店など出かけられる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や知人・家族などに手紙を出したりしている。年賀状などみんなで作りご家族さんにお出ししたりしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会が滞っている利用者さんの家族には、面会して頂けるように連絡をとったり、遠距離の方は難しいが近距離の方などは気軽に来所されている。また行事など来所しやすい祝日にするなどの工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が身体拘束しない介護を心掛けている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 出入り口の鍵は、掛けないケアを実践している。  (外部評価) 1階の玄関とユニットの扉には日中鍵を掛けていない。 2階は、利用者に外出傾向がある時は、全家族に了承を得て、利用者の安全に配慮して一時的に施錠することもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認表をチェックしながら、利用者のペースを崩す事がないように、自然に声かけを心掛けている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の危険性に応じて、保管管理を行っている。	※	保管場所を忘れることを防ぐ為、ご家族さんと共に確認を行っている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 月に1度程度の研修を行い、さまざまな例について職員で相談、意見を出し合い事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) すべての職員が訓練を受けていないが、他の職員がうけ、ホームでの勉強会で備えている。	※	職員全員が急変に対応できるように今後、勉強会や研修に参加していきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の訓練に参加したり、ホームでの避難訓練も定期的におこなっている。  (外部評価) 避難訓練は昼夜を想定して年2回行い、地区の防災訓練にも参加している。	※	前回の運営推進会議で近隣の方から「緊急時、具体的な手助けの方法を教えて欲しい」との前向きな意見をいただいた。管理者は、消防署や自主防災組織等と訓練方法を検討する準備をしている。地域住民との役割分担を想定した訓練が行われることを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日常生活において、起こりうるリスクについて面会されたご家族さんには、十分に話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化などには、十分に気を配っている。また、異変が起きた場合などには、速やかに家族さんや医師を連絡をとり対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量について理解を深め、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 献立に食物繊維の多い素材を使うなどの工夫をしている。また、便秘がちな方には、マッサージや水分補給等を行っている。また歩行訓練や散歩など適度な運動を促している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後には必ず、歯磨きをしている。また、ポリドントによる清潔保持にも心掛けている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量をチェックしたり、水分量も個々で分かるようにしている。  (外部評価) 食事及び水分摂取量は日々記録している。利用者の既往や状態に応じて、かかりつけ医とも相談しながら利用者の健康を保てるよう配慮している。運営法人の栄養士にカロリーチェック等の指導を受けている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種や手洗いの慣行・来所の方には消毒やマスクをして頂くなど予防も実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は、使用后よく洗い消毒している。また、乾燥機やハイター消毒して衛生管理に努めている。毎日新鮮な物を買物する。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには、花壇などを置き、いつでも自由にきていただけるように開放的にしている。スロープになっていて車椅子でも自由に出入りできるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一般家庭のようなお風呂、台所、トイレ、テーブルも木製で生活観が出せるようにしている。共用ホールや廊下には、掲示物や季節の花などで雰囲気を出せるように工夫している。  (外部評価) 玄関周りやホーム内は利用者と職員の掃除が行き届き、清潔感がある。廊下には写真が数多く貼ってあり、買い物や病院受診の風景など、日常の利用者の様子が来訪者によく分かる。壁や天井の利用者の手作り作品が季節感を出している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置き、仲の良い利用者さんと談笑したりしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時に本人・家族の方と配置を決めたり、以前使っていた物を持ってきて頂いている。本人に合わせた配置など行なっている。  (外部評価) ベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、その他は持ち込み自由である。居室は広く、利用者は家族と相談して、冷蔵庫、テレビ、タンスなどの家具を置いている。家族の写真やカレンダー、趣味の日本舞踊の扇を飾りつけるなど、思い思いにくつろげる居室を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 個人の状況や好みに合わせた温度調節を行っている。換気には十分に配慮している。空気清浄機の設置もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置により、歩きやすく、又下肢筋力の低下予防のため、運動している。また、居室に畳やカーペットを敷くなど安全で暮らしやすい環境にしている。	※	中庭にスロープ設置の予定
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 場所をイラストと文字で表示したり、居室の入り口には名前プレートと顔写真を貼って迷わないような工夫もしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチを設置したり、季節の草花を植えるなど利用者がくつろげるように工夫している。また、畑に野菜を植え収穫をみんなで楽しんだりしている。		段差をなくし転倒の危険をなくしたり車椅子の出入りがしやすくしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 0 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者さんの希望を聞いて、出来る様支援している。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者さんと一緒に運動したり、ゲームなどのレクリエーションを楽しんだりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホールや個々の居室で思い思い過ごして頂いている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用さんと職員とのコミュニケーションを日頃から取れており、会話の中で笑顔や生き生きした表情がみられている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月の行事で、お花見やぶどう狩り、コスモス見学など外出行事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	週2回の訪問看護ステーションの健康管理や月1回の医師の往診がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調や精神状態に応じた、その時々要望に合わせた支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時や電話連絡の際には、その都度要望に合わせた支援を行っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	馴染みの方や近隣の農家の方が、野菜などを持ってきて下さる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の参加を呼び掛けたり、理解して頂くようにホームで行っていることなどを話合っている。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人向上心を持っている。ケアカンファレンスにおいては、意見や質問など積極的に話し合っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんとコミュニケーションは十分に取れており、その中で希望や要望には日頃話し合い、改善に努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	日頃より、家族さんとのコミュニケーションを密にとり、希望や要望に努めている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・個人個人に合わせ本人が出来る事は、積極的に取り込んで支援することにより自信や満足感を持てるようにしています。
- ・機能回復に向けた支援で車いすの方が、歩行できるまで回復しています。
- ・利用者同士の関係を大事にし、利用者同士が協力しながら生活が出来るよう努めています。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ウェルケア みどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)  
氏名 山本 明美

評価完了日 平成 20 年 12 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設当初からの理念があり、また少しづつではあるが地域との交流も増えている。  (外部評価) 管理者と職員は、理念の「穏やかで豊かな暮らし」という言葉どおり、利用者がホーム内でも地域の中でも過ごしやすい生活を送れるよう支援している。	※	理念である「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します。」に基づき今後も実践していく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関前に掲示しており、ユニット会でも話し合いの場を持っている。  (外部評価) 職員は、開設時に全員で作った理念に愛着を持って実践に取り組んでいる。管理者と職員は会議の中で話し合い、利用者一人ひとりに合ったより良い介護を目指している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時には、利用者さんや家族さんに説明し、運営推進会議などでも地域の皆様に説明している。	※	掲示板設置を検討中

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時など気軽に声をかけ合い、立ち寄って頂けるようにしている。	※	地域の方が声をかけていただく事もある。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域のサロンに出かけたり、地域の防災訓練などにも参加している。秋祭りの神輿にも来ていただいている。夕涼み会などにも地域の方などにも参加して頂いている。  (外部評価) 町内会に所属している。秋祭りには家族にも案内を配り、地域の方や子どもたちも毎年多数来てもらい、利用者の楽しみの一つとなっている。公民館主催の文化祭に利用者のちぎり絵を出品して、好評を得ている。地域とのかかわりが持てる場を利用して、ホームと利用者を知ってもらうよう努めている。近隣の方から農産物や季節の花の差し入れがあり、お礼にお茶の接待をしている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方が、介護保険や高齢者の相談に来所された場合には、相談にのり状況に応じて地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の紹介もしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) チェックポイントシートを今年度から実施し、職員の意欲と技術の向上を図っている。  (外部評価) 自己評価は職員全員が個別に行っている。開設から5年目を迎え、利用者は落ち着いた生活を送っている。管理者は、地域とのつながり強化のため活動を続け、職員は日々のケアの質の向上に取り組んでいる。評価を一人ひとりが業務の振り返りに役立っている。	※	外部評価を基に具体的な改善点を見つけ、取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回開催し、外部評価の結果を議題にしサービスの向上に努めている。  (外部評価) 運営推進会議の開催時間を毎回変更し、家族や地域の方など参加者が一番多く集まれる時間帯に設定している。職員の参加人数も多い。区長や民生委員からは町内の情報を得て、市や地域包括支援センターの職員からは制度の情報や助言を得ている。近隣施設からの出席者は無い。	※	管理者の努力により、運営推進会議の出席者数は毎回多い。しかし、近隣に住宅が少ないので、緊急時に備えて消防署や警察にも出席してもらい、ホームの構造や現状を把握してもらうことが望まれる。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現在のところ、運営推進会議以外ではあまりありません。  (外部評価) 市の社会福祉協議会の担当者が決まっており、相談しやすい関係ができています。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修には参加しているが、職員全体に意識が浸透しているかどうかは把握できていない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 意思疎通が困難な利用者においては、入浴時などあざや傷の確認を徹底しており、防止に努めている。	※	ユニット会で個々に応じた身体状況の報告を毎回行っている。今後、勉強会を通じて職員全員が理解を深めていけるように努めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書に沿って説明し、理解して納得されてから契約を交わしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その都度、対応している。 苦情意見箱を設けて、その都度意見を聞き迅速に対応している。また、運営推進会議で家族への参加を促し、外部者へ表現できる機会を作っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族への広報等を郵送している。異常がみられる場合は、家族に連絡して迅速に対応している。  (外部評価) 年4回程度、運営法人の広報誌で行事の報告、写真、職員の異動などを家族に知らせている。預かり金を保管している家族には領収書等を送り、署名捺印して返送してもらっている。	※	家族には、連絡や面会時に近況報告などを詳しく伝えている。また、要望等にも応えている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その都度、対応している。 苦情意見箱を設けて、その都度意見を聞き迅速に対応している。また、運営推進会議で家族への参加を促し、外部者へ表現できる機会を作っている。  (外部評価) 家族の意見は来訪時に聞くことが多い。遠方の親族には電話で確認している。重要事項説明書に第三者機関及び運営法人の苦情受付窓口や、苦情改善システムも明記している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) チャレンジカード等を実施している。 ユニット会において意見交換や情報交換を行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 各ユニットごとに、利用者さんの状況に応じて柔軟に対応できるように勤務を調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職の場合、引き継ぎを行い利用者さんに不都合がないように配慮している。  (外部評価) 法人内の異動はあるが、ほとんどない。利用者との関係性を続けるため、ユニット間の異動も行っていない。可能であれば、新旧職員のシフトを重複させている。管理者は日頃シフトに入っていないので、業務のフォローができるという利点がある。	※	異動による職員の支援方法や対応が異なることがないよう統一した支援を心がけている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会や勉強会には、参加するように促し現場で生かせるようにしている。  (外部評価) 管理者は法人内外の研修案内を職員に知らせ、職員は自主的に参加している。研修報告は2か月に1度のホーム全体会議で行っている。会議終了後は、研修内容をより理解するためレポートを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同法人内の行事などに参加し交流を深めている。また、地域の勉強会やケアネットに参加し、同業者との関係を深めている。  (外部評価) 職員はグループホームの相互研修に参加して、サービスの質の向上を目指している。管理者と職員は、県や市の研修を通じて、また法人内の他施設からの情報も多く得られる状況にある。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会やユニット会後の座談会を設けて、日々の話合いの場を設けている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) チェックポイントシートを使用しての向上心の確立に努めている。	※	職員一人一人が専門的な知識を学び理解し、支援につなげていけるように努力している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問により、利用者さんとの面会をし、訪問状況を職員同士で共有する場をもっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問により、家族さんとの面会をし、訪問状況を職員同士で共有する場をもっている。	※	面会時など家族の思いをくみとり、支援に生かしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用前訪問時に、家族さん本人さんとよくお話をし、必要に応じて担当ケアマネージャーとも連携し、他のサービスに応じた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者と家族が職員と相談しあいながら、施設生活がよりよくなるように努めている。随時、ホームでの生活の見学ができ、雰囲気を見て頂いている。  (外部評価) 自宅や病院から入居希望がある場合、管理者と計画作成担当者は本人及び家族から話を聞き、見学や泊りの要望にも応じ、スムーズな入居となるよう努めている。併設のデイサービスを利用してから入居する場合もあり、デイサービスの職員とも馴染みの関係が保たれている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の介護を通じて喜怒哀楽を共に感じ、利用者から人生について学ぶようにしている。  (外部評価) 職員は、利用者からホーム内にある畑の野菜の育て方を教わったり、テレビの料理番組を見ながら調理方法を教わるなどしている。	※	利用者本人が出来ること出来ないことを見極め、一方的な介護にならないように支援することを徹底している。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者の家族と連絡を密にして、よりよい介護ができるようにしている。また、行事にも参加して頂くように促している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) よく面会に来られる家族が多い。帰られる際には、安心したお顔で帰られる。家族と職員とのコミュニケーションもよく取れているため、ご本人との関係に反映している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの友人や知人の訪問や面会にも来ていただいている。	※	必要に応じて本人と家族と連絡ができるように支援している。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) テーブルを挟んでの食事や孤立しがちな利用者さんには気を配り、職員が寄り添うようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 地域の近い方で買い物等でお会いした際は、立ち話をしたり、会話を楽しんでいる。また、必要に応じて訪問や電話連絡を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用前調査において、本人の希望や意思を組みとりまた、入所されてからも希望や思いを聴いている。  (外部評価) 家族から利用者に希望を聞いてもらい、実現できるものから実行している。職員は、利用者の体調や思いを考慮しながら臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴などを的確に把握し、個々に応じたサービスを提供している。また、使い慣れた家具などを居室に配置することで安心した生活ができるように支援している。	※	生活歴などの詳細は、家族と度々話す機会を持つ事で発見することが多いので、そういった機会を持つように努力している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の生活の中で、ご自分が出来ることは自分でして頂き、残存能力を阻害しないように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヵ月に1回、職員同士で話し合いの場を設けて意見を反映できるように支援している。  (外部評価) 介護計画は、利用者及び家族の希望や状態を考慮して作成している。利用者ごとに担当制で職員が決まっているが、他の職員とも話し合いながら計画を作成している。月1回の職員会には夜勤者も出席し、欠席者には記録と口頭で情報の共有化を図っている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化が起きた場合は、職員同士で話し合いの場(ケアカンファレンス)を開き、随時検討し新たに支援計画を練っている。  (外部評価) 3か月ごとに介護計画を見直している。介護計画の内容を日々評価した記録をもとに、1か月の評価を行い、次月の介護目標を決めている。変化があった場合には新たな計画を作成している。	※	モニタリングし、随時支援計画を変更している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は、ケース記録に的確に記録している。看護師や医師からの特記事項などは別々にノートを作り、わかりやすく記入している。また、申し送りノートなどで各職員が情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 広いスペースを利用しての季節に応じた催しものや行事を行っている。(敬老会・夕涼み会・クリスマス会など)  (外部評価) 併設のデイサービスで催される餅つきなどの行事などに参加しており、ホームとデイサービスの利用者同士で会話を楽しむ機会もある。利用者の外出希望などに対しては基本的に家族の協力が得られるが、通院介助などは家族から希望がある場合は支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進委員会や消防訓練の際など、民生委員の方と合同で関わりを持ち、交流を図っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて支援していきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて協議していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前に、協力病院の医師を紹介し、納得の上、関係を築いている。  (外部評価) 利用者及び家族の希望を大切にし、入居時にかかりつけ医を決めている。協力医療機関から月1回往診があり、定期的に血液検査やレントゲン等も行っている。協力歯科も本人や家族の希望により往診に応じてもらえる。	※	入居時の身体検査や測定の際、家族とかかりつけ医が話し合いの場をもつように支援している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 毎月1回の医師の往診をしている。その際に、健康上の不明な点などは、随時相談し指示を頂いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 週2回の訪問看護師が健康チェックを行っており、救急時は、24時間体制で対応している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者の日頃からの健康状態や変化など関係医療機関と情報交換を行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態変化の際に、家族と連携を取り合い、話し合っている。看取りに関する指針についての説明を行っている。  (外部評価) 看取りの経験は無いが、医師、訪問看護師、職員と家族は度々話し合っている。職員は研修で重度化について知識を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族や医師・看護師と連携を取り合いながら、早期より検討を行っている。また、看取りに関する指針・同意書があり、それに沿い支援している。	※	今後、ユニット会などでターミナルケアについての勉強会ができるようにしたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 別の居所の担当者と連絡をとりあい、利用者さんの住み替えのダメージを軽減するようにしている。また、可能な限り情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) コミュニケーションの際には、傷つくような言動をしないように普段より職員どうしで話し合っている。  (外部評価) 職員は、利用者と同じ食卓に着き、会話を楽しみながらも全員に自然な感じで注意を払っている。その気負いの無さは介護する側、される側ではなく、お互いを家族として受け入れている感じがある。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 常に利用者さんに希望や思い、意見を汲み取りその実現に向けて可能な限り努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に答えるように支援している。また本人の生活時間等のペースに合わせた支援をするように日頃より心掛けている。  (外部評価) 職員は、ホームの良い所を「利用者に温かい声かけをしながら支援していること」と考えている。共同生活のルールや利用者のできないことの中でも、工夫して利用者のできることを見出している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服などご自分の好みものを選び着衣して頂くように支援している。本人の希望があれば、その都度対応している。 家族さんとも連絡を取り合い衣類の購入等をすすめている。	※	本人の要望に応じて利用者と一緒に買い物へ行ったりしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳や下膳など利用者と一緒に実施し、食事を楽しむように支援している。  (外部評価) ミキサー食や刻み食、お粥など、利用者に応じて食事を用意している。利用者はテーブル拭きや下膳などを分担している。職員は利用者の好みや希望を聞きながら献立を立てている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者の希望する飲み物やおやつなどは召し上がって頂いている。なるべく日常で楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) チェック表において排泄パターンを確認し、なるべく便座にて排泄できるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて入浴して頂いている。その際、なるべく平等に入れるようにしている。ゆったりと時間が過ごせるように支援している。  (外部評価) 入浴は週に2回は行うようにしているが、状況に応じてシャワー浴、足浴、清拭などで清潔を保つよう配慮している。介助を要する利用者は、職員数の多い午後に入浴するなどの工夫もしている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 休息は、各自のリズムに合わせてして頂いている。体調に合わせて休息とホールで過ごす時間とのバランスをとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 下膳やごみ集め・モップがけ・洗濯たみなど、一人一人役割を持っている。ベランダからの景色を楽しんだり、園芸を楽しんだり個人に合った思い思いの生活をしている。  (外部評価) 職員は、一人ひとりに合わせた役割を担ってもらえるよう支援している。廊下に当番表を作り、モップがけやゴミ箱の管理など、できることを楽しみながら行えるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんと相談し、本人がお金を持つことを了承して頂いている。また希望に応じて使えるように支援している。	※	個人でお買い物を楽しんだり、お金を使うことの大切さを理解できるように個別で支援している。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日などは、戸外へ出て散歩をしている。また、毎月行事があり外出している。  (外部評価) 業務日誌に外出した利用者の名前を記録して、チェックしている。初詣や花見、夕涼み会やクリスマス会などの行事以外にも、近くの喫茶店や海岸公園への遠出も行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 催し物など行きたい場所がある場合があれば、できるだけ希望を組んでいる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じて家族さんとの電話を楽しんで頂いたり、年賀状を出したりしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問された時などは、笑顔で接し気軽に行き来できるように支援している。なじみの友人や知人の来訪も多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット会やケアカンファレンスにおいて身体拘束をしないようなケアを話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) センサーを設置している。また、所在確認表において1時間おきに確認している。  (外部評価) 1階の玄関とユニットの扉には日中鍵を掛けていない。2階は、利用者に外出傾向がある時は、全家族に了承を得て、利用者の安全に配慮して一時的に施錠することもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認表において24時間を通じて確認している。その際、プライバシーには十分に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さんの状況に応じて対応している。また、申し出がある場合などは、購入する支援を行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が起きた場合などは、速やかに対応できるようにユニット会などで誤嚥防止の勉強会などを行っている。また、誤薬がないように一人一人の名前を書き、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルはあるが、職員の状況把握の度合などにより、実践できるかは分からないが、防火訓練などにおいて訓練を通じて迅速に行動できるようにしている。	※	定期的な研修やユニット会で実行できるようにしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を行い、緊急連絡網を作成している。  (外部評価) 避難訓練は昼夜を想定して年2回行い、地区の防災訓練にも参加している。	※	前回の運営推進会議で近隣の方から「緊急時、具体的な手助けの方法を教えて欲しい」との前向きな意見をいただいた。管理者は、消防署や自主防災組織等と訓練方法を検討する準備をしている。地域住民との役割分担を想定した訓練が行われることを期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者さんの家族とは定期的に連絡を取り、状態を説明したり、抑圧感のない暮らしを心掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化など異変時は、ケース記録に記入し職員間で申し送りをし、状況把握に努めている。異変時には、訪問看護に連絡し早急な対応を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を各自理解しており、症状の変化等があれば、医師に相談を随時している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分を十分に摂取していただくように支援し、日々の生活において体調を見ながら運動(散歩)をすすめ、実施している。	※	便秘が続く場合などは、訪問看護や往診の際に状況を伝え、即時に対応できるようにしている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施している。入れ歯の殺菌消毒など清潔保持に努めている。	※	入れ歯の噛み合わせや調整が必要な場合は、定期的に歯科医師による往診をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取表・水分摂取表があり、職員が的確に把握するように努めている。  (外部評価) 食事及び水分摂取量は日々記録している。利用者の既往や状態に応じて、かかりつけ医とも相談しながら利用者の健康を保てるよう配慮している。運営法人の栄養士にカロリーチェック等の指導を受けている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症予防として、毎食後テーブルや手すりなど殺菌消毒を実施しており、予防に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 包丁・まな板などの調理器具は、毎日消毒し食材も一日で使い切るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前に花を植えたり、看板も見やすいような配慮がなされている。また、各ユニット入口では誰でも入りやすいように季節の飾りなどを行っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物やテーブルの上には、花を置き季節感が出るように工夫している。また、行事の写真や壁画などを展示して利用者さん並びに来訪者の方が自由に見ただけのようにしている。  (外部評価) 玄関周りやホーム内は利用者と職員の掃除が行き届き、清潔感がある。廊下には写真が数多く貼ってあり、買い物や病院受診の風景など、日常の利用者の様子が来訪者によく分かる。壁や天井の利用者の手作り作品が季節感を出している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールやソファには、共有できる場所を設けている。また、利用者さん同士で思い思いに過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんが以前使われていた家具や飾り物・掛け軸などを置き、居心地よく過ごして頂いている。  (外部評価) ベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、その他は持ち込み自由である。居室は広く、利用者は家族と相談して、冷蔵庫、テレビ、タンスなどの家具を置いている。家族の写真やカレンダー、趣味の日本舞踊の扇を飾りつけるなど、思い思いにくつろげる居室を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 時間をみて居室の換気を行っている。また、空調の清掃などを定期的に行っている。	※	利用者一人一人、体感温度が違うため本人の身体状況に応じて調整している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置や、車椅子も十分に通れるようにスペースを設け、障害となるものは置いていない。	※	中庭にスロープ設置の予定
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者さんの状態に応じて、自立に向けた支援を行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダから外の景色を眺望したり、一緒に洗濯ものを干してもらっている。また、敷地内の畑では野菜や花を植え、園芸や農作業を楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の会話の中から、思いや希望を聞いて家族さんとも相談している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食事やおやつ時などは、利用者さんとゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さん各自のペースで過ごしてもらっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の生活において、利用者さんの笑顔を引き出すように会話やスキンシップを行い、表情豊かに過ごしてもらえるように支援している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月の行事では、お花見・ぶどう狩り・コスモス狩り・菊花展など季節に応じた外出行事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月1回の往診があり、週2回の訪問看護師による健康チェックがあり、その都度相談できる体制がある。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの状態や変化に応じた対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には、日々の生活状況や体調などを伝えている。機関紙の発行などにより、信頼関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	知人の方や地域の農家の方からの野菜などを持ってきて下さることがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	少しずつ増えてきているように思う。近所の方ともお話が出来ている。地域のサロンにも参加している。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	親睦会やユニット会などで気兼ねなく話し合い、意見の交換を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの要望を受け入れ、支援することで明るい表情になっているように感じる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時には、感謝の言葉を頂くことが多く職員はそれを励みにしている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員ひとりひとりが、利用者と同じ目線に立ち地域の中で安心して穏やかに暮らしていけるように支援していきます。また、地域との交流を結んでいく中で地域と共生し、誰でも気軽に立ち寄れるような施設になるように日々頑張っていきたいです。